

礼拝プログラム

2019年11月3日

司会: 福島兄 **奏楽:** 大倉姉 **通訳:** 石塚兄姉

賛美: Song of Praise

使徒信条: * Apostle's Creed

アナウンスメント: Announcements

牧会祈祷: Pastoral Prayer

献金: Offering

メッセージ: Sermon

こうして教会は(18):まごころを評価する教会
"Then the Church (18): Acknowledging Each
Other's Sincerity"

賛美: Song of Response

頌栄: Doxology

祝福: * Benediction

*印箇所は起立ですが、起立が困難な方は着席のまま
で結構です。礼拝メッセージは英語に訳されます。必要
な機器を会堂入口にてお求めください。

*Please stand, if able.

*English translation of the service is provided, from
the announcements until the end of the service.
Please pick up a translation device by the entrance
of the sanctuary.

アッシャー: マーシャル姉、ウィットワース姉

グリーター: スタンクリフ姉

ナーサリー: 仰兄 (読): コラネリ姉

チルドレンチャーチ: 大倉姉、石鍋姉

礼拝前掃除: 町田兄 **セキュリティ:** 大野兄

口

来週、10日の礼拝

司会: 町田兄 **奏楽:** ボウト姉 **通訳:** 石塚兄姉

メッセージ: 「こうして教会は(19): 賛美の力」

賛美: 新聖歌21、新聖歌325

アッシャー: マーシャル姉、ウィットワース姉

グリーター: スタンクリフ姉

ナーサリー: 石井姉、カーター姉、(読): 大野姉

チルドレンチャーチ: テリケス姉、奏姉

礼拝前掃除: テリケス兄 **セキュリティ:** 町田兄

お知らせ

本日の礼拝後の予定

コーヒーアワー、バイブルスタディー、カレーランチ、
理事会、ユース、ゴスペルフラ

■礼拝によろこそいらっしやいました。今日はカレーラ
ンチがあります。どなたもお楽しみください。教会につ
いて、集会、信仰、キリスト教等について、ご質問があ
る方はお気軽に牧師までおたずねください。

■今年も12月8日のクリスマス・プログラムに向けてク
リスマスコワイヤーを結成します。このための練習が
以下の日程でもたれます。来週11月10日、17日、2
4日、12月1日(いずれも12時から12時45分まで教
会堂において)。希望者は石塚姉かアロイシオ姉に
直接、お申し出ください。

■昨年に引き続き、今年も教会ではオペレーション・
クリスマス・チャイルドに参加し、シューボックスにク
リスマスギフトを入れて子供達に送ります。希望者はス
コット姉、アーリー姉まで。締め切り: 11月24日

■12月7日(土)、朝8時30分から正午まで **Elijah's
Restaurant** にてウーマンズ・クリスマス・ブレックフ
ァーストがもたれます。礼拝後に今月いっぱい受け
付けます。詳細は町田姉まで。

■年末年始の予定

11月27日(水): サンクスギビングイブ礼拝

12月8日(日): 合同礼拝、クリスマスプログラム

12月20日(金): キャンドルライトサービス

12月22日(日): クリスマス礼拝

12月27日-1月1日: イクイパーカンファレンス

12月29日: うどん&そば

1月5日: 日英合同新年礼拝

1月11日: 新年聖会 @ウエストコビナ教会

今週の予定

6日(水)	水曜集会	7:30pm-
7日(木)	木曜集会	10:30am-
8日(金)	恵み会	10:30am-

アオサの恵み

私が神学校卒業後に遣わされた沖永良部教会
に宮元さんというおばあちゃんがいました。
当時、90才近いおばあちゃんでしたが、苦
労を重ねた人生であったということが、その
顔に刻まれた深いしわと、野球のグローブの
ような大きな手にあらわれていました。

島で生まれ育った宮元さんにとりまして海に
行くことが生きがいでした。沖永良部島は引
き潮になりますと島を囲んでいる100メー
トルほどのサンゴ礁や岩が姿をあらわします
そんな時をみはからい彼女は岩に根づくアオ
サという海藻を素手でむしりとりします。

アオサはあちこちに群生しているわけではな
く、わずかに岩の表面についているもので、
それを採取して集めることは大変に骨が折れ
ます。でも宮本さんは「アオサを取っている
時が一番、幸せです」と嬉しそうに、いつも
海に行かれていました。

採取されたアオサは海水で何度もあらわれ、
砂や不純物が取り除けられ、天日干しにされ
ます。そして、地元のお土産屋さんがそれを
買い取っていました。

時々、そんな貴重なアオサを私のもとにも持
ってきてくださいました。一握りのアオサの
ためにどれくらいの時間をかけたのだろう。
そんなことを思いながら、みそ汁に入れます
と、乾燥していたアオサがお椀の中に広がり
食卓は磯の香に包みこまれました。

その味噌汁の味もさることながら、何よりも
嬉しかったのは、そのアオサを私のために取
って下さったということ。その心が何よりも
嬉しく感じました。宮本さんのまごころを私
はいつまでも忘れることはありません。